２０１９年度　たまねぎ特別栽培防除体系（北もみじ2000）

JAふらの・玉ねぎ部会

項目	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 1	7月 2	7月 3	7月 4	8月 1	8月 2	8月 3	8月 4	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中
作況平年値			5/6						7/3	7/9			7/28			8/19	9/9							
生育期節 農作業			移植期						球肥大始	球肥大期		倒伏期			枯葉期		収穫期							
白斑葉枯病			○	○	○			○	●	●	●	○	●	●	●	○								
小菌核病								○	●	●	●	○												
軟腐病								○	●	●	●	○												
リン片腐敗病									○	●	●	●	●	●	●	○								
灰色腐敗病													○	●	●	●								
タマネギバエ等			○	○	○																			
ネギアザミウマ								●	●	○	●	○	●	○										
●は基幹防除 ○は臨機防除 殺菌・殺虫薬剤の使用例							アグレプト 1,000	アグレプト 500 アグレプト 1,000 ポリオキシンAL 500	アグレプト 400 スターナ 1,000 ポリオキシン 500 Gペンコゼブ又はGダイセンM 400	スターナ 2,000 ベネビ 2,000 アフェット 2,000	クプロシールド 400 ディアナ 2,500 Gペンコゼブ又はGダイセンM 400	クプロシールド 2,000 フロー 1,000 アフェット 2,000	クプロシールド 2,000 ベネビ 2,000 リベロ 2,000	クプロシールド 1,000 ディア 2,500 フロンサイドSC 1,000	クプロシールド 500 フロー 1,000 ポリオキシンAL 500	クプロシールド 2,000 ポリオキシン 500 リベロ 2,000	ポリオキシンAL 500 ｸﾌﾟﾛｼｰﾙﾄﾞ 1,000倍で使用 ﾌｼﾞﾄﾞｰL							
除草剤散布																								
●は基幹防除 薬剤の使用例																								

項目	成分P	回数	カウント
ポリオキシンAL（ポリオキシン複合体）	0P	5回	0P
GペンコゼブまたはGダイセンM（マンゼブ）	1P	2回	2P
アフェット（ペンチオピラド）	1P	2回	2P
フロンサイドSC（フルアナジム）	1P	1回	1P
リベロ（メトコナゾール）	1P	2回	2P
アグレプト（ストレプトマイシン）	0P	3回	0P
スターナ（オキソリニック酸）	1P	1回	1P
フジドーLまたはクプロシールド（塩基性硫酸銅）	0P	6回	0P
ダイアジノン（ダイアジノン）	1P	1回	1P
ベネビアOD（シアントラニリプロール）	1P	2回	2P
ディアナSC（スピネトラム）	1P	2回	2P
フローバックDF（BT）	0P	2回	0P
ゴーゴーサン（ペンディメタリン）	1P	1回	1P
アクチノール（アイオキシニル）	1P	1回	1P
		合計P	15P

ダイアジノン粒（３～６ｋｇ）　どちらか１回　または　ダイアジノン乳 700倍

（土壌処理）ゴーゴーサン乳剤（300～500ml）または 細粒剤F（5～6kg）

（茎葉処理）アクチノール乳剤（100～150ml）

備考（耕種的防除）（注意事項）

ネギアザミウマの予察に基づく効率化防除方法
　1回目防除：成虫寄生株率10%以上で10日以内防除開始（寄生株率50%以上では直ちに防除）
　2回目防除：1回目防除の5～10日後に連続防除
　追加防除：寄生株率50%以上で直ちに防除

※　使用基準(使用時期)を遵守し、体系の範囲内での栽培とする。(不要な場合は薬剤を削除して可)

※　使用順の入替えは可とするが、防除効果とローテーション防除により体系化しており、または混用の適否もあり体系通りの使用が望ましい。

※　ネギハモグリバエの激発が予想されるほ場では極力特別栽培を避ける。

※　病害虫多発時はアリンサンデス2号　500倍を加用する。（但し、Gペンコゼブ、Gダイセンム、フジドーL、クプロシールドとの混用は不可。アリンサンデス2号にはN=4%含まれており、500倍200ℓ/10a散布で1回当り化成N=0.016kg/10aの施用量となります(基肥化成N量に注意が必要)。

複製不可